

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:79.

超選択的動注療法における患者の苦痛除去の取り組み

長谷川和美、草野芳枝

超選択的動注療法における患者の苦痛除去の取り組み

光学医療診療部・放射線部ナースステーション 長谷川和美、草野 芳枝

【概要】

旭川医科大学病院血管造影室において、看護師・臨床工学士・医師らで、頭頸部悪性腫瘍に対する超選択的動注療法（transcatheter arterial infusion 以下 TAI）を受ける患者の苦痛除去と安全確保を目的に、原因の除去と使用物品の工夫などについて取り組んだ。

【問題】

頭頸部悪性腫瘍に対する TAI を受ける患者は、抗腫瘍剤の腫瘍栄養血管への注入と同時に、チオ硫酸ナトリウム水和物が 600ml/h（10ml/min）の速度で中心静脈カテーテルより急速注入される。常温の薬液が体内に急速注入されることにより、患者は激しい悪寒・戦慄を体験していた。この患者の苦痛に対し、着衣の装着、電気毛布の使用、室温は高く設定し、ホットパックの使用などの対応を行ったが、いずれも効果的ではなかった。通常 TAI は、4～5回受けなければならないが、一回目の TAI を受けた患者は、激しい悪寒・戦慄を経験することで、「あの治療はすごく寒くなるから行きたくない。」「寒くないようにして下さい。」などと表現することが多くあった。

【取組】

看護師が中心となり、チオ硫酸ナトリウム水和物の急速注入による悪寒・戦慄防止の方法を検討した。結果、

その薬液を加温することで、悪寒・戦慄は防止することが出来ると考えた。その薬剤の最大許容温度は、37℃と薬剤師に確認した。当初は、薬液パックをホットパックで直に温めていたが、注入が開始されるまでには十分に加温されず、効果的な方法ではなかった。その後、血液加温コイル・血液加温器の存在を臨床工学士より紹介された。血液加温器の加温性能は、41℃の設定で注入速度が 10ml/min の場合、血液加温コイルからの出口温度は約 36℃となっている。取り組みは、TAI が行われるときに実施し、出口温度や患者の反応などを評価しながら進めた。

【効果】

臨床工学士の協力を得、治療中に実際に出口温度を測定した結果、36～37℃の間で推移していることが確認された。血液加温コイル・血液加温器を使用するようになってからは、チオ硫酸ナトリウム水和物は適温に加温され患者に注入されるようになった。その結果、患者は悪寒を訴えることはなくなり、TAI における患者の苦痛の除去につながったと評価できる。